

認定・給付データを用いた 認知症に関する現状把握

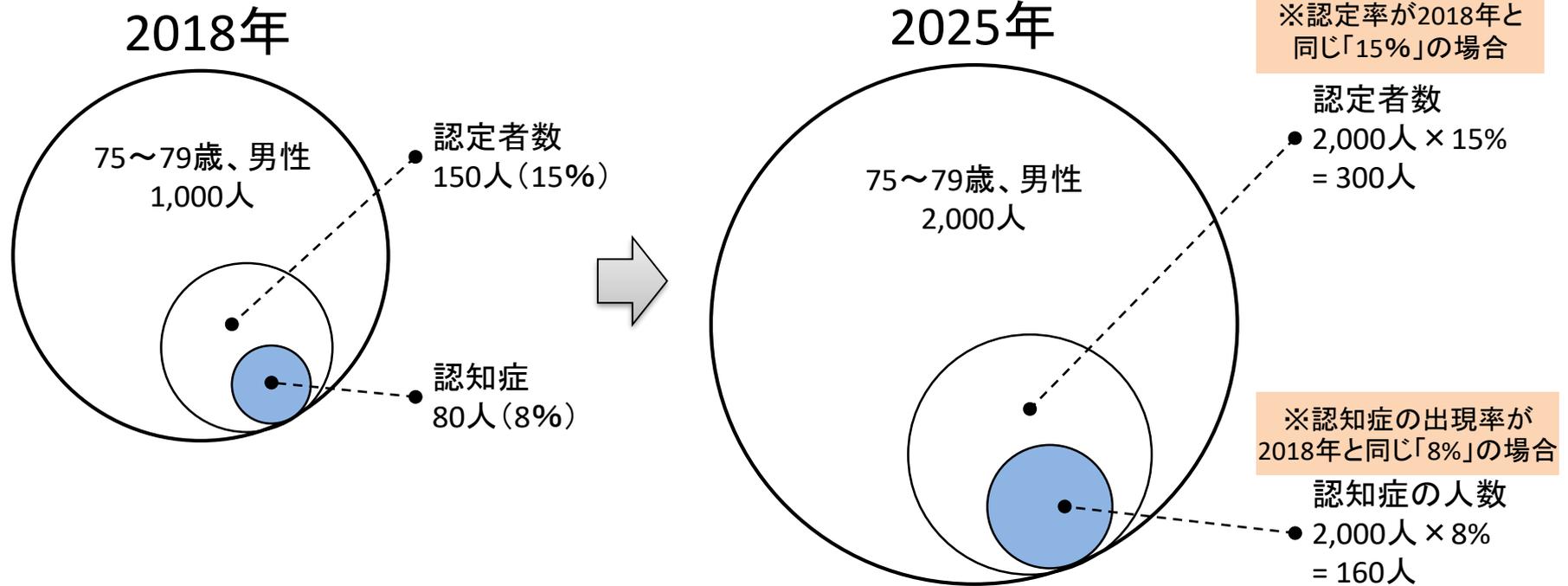
【データから知りたいことは何か？】

1. 将来、認知症の人数は何人になるのか？
2. 認知症の人の特性はどうなっているのか？
3. 認知症の人の療養場所はどうなっているのか？
また、認知症以外の人と違いはあるのか？
4. 認知症の人の生活機能の低下の特徴は？

1. 将来、認知症の人数は何人になるのか？

2025年の認知症者数の推計方法の概念図

－ 要介護5の男性の人数の推計のイメージ －



※必要なデータ

- ①性別年齢階級別 人口
- ②性別年齢階級認定者数
- ③性別年齢階級別にみた認知症の人数

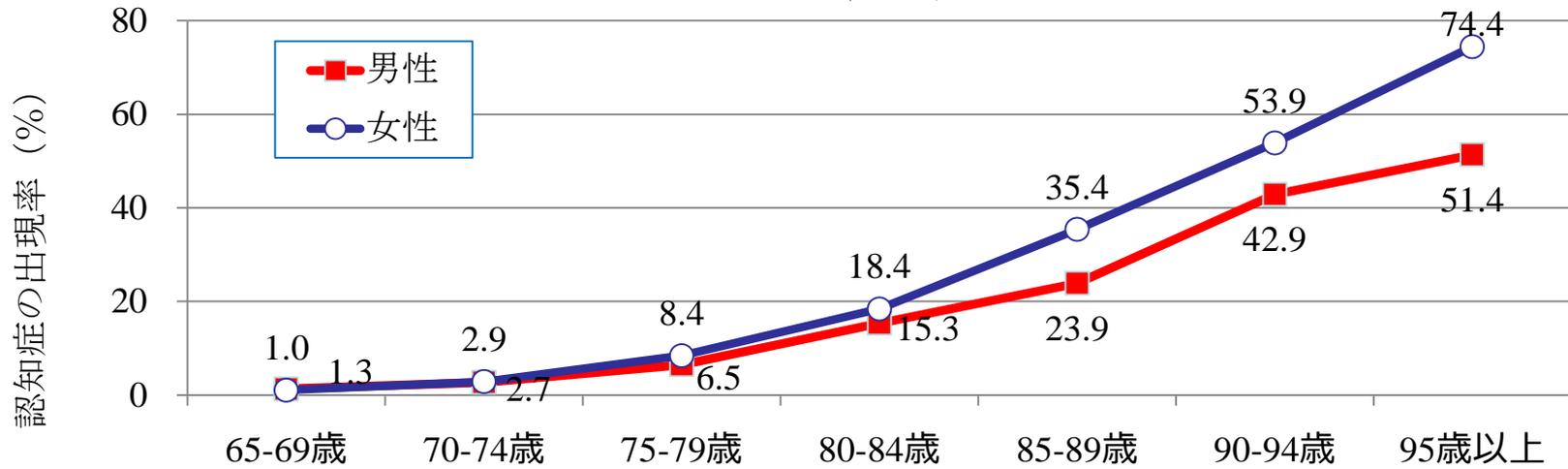


・認知症の出現率
・認定者に占める認知症の人の割合
が計算される。

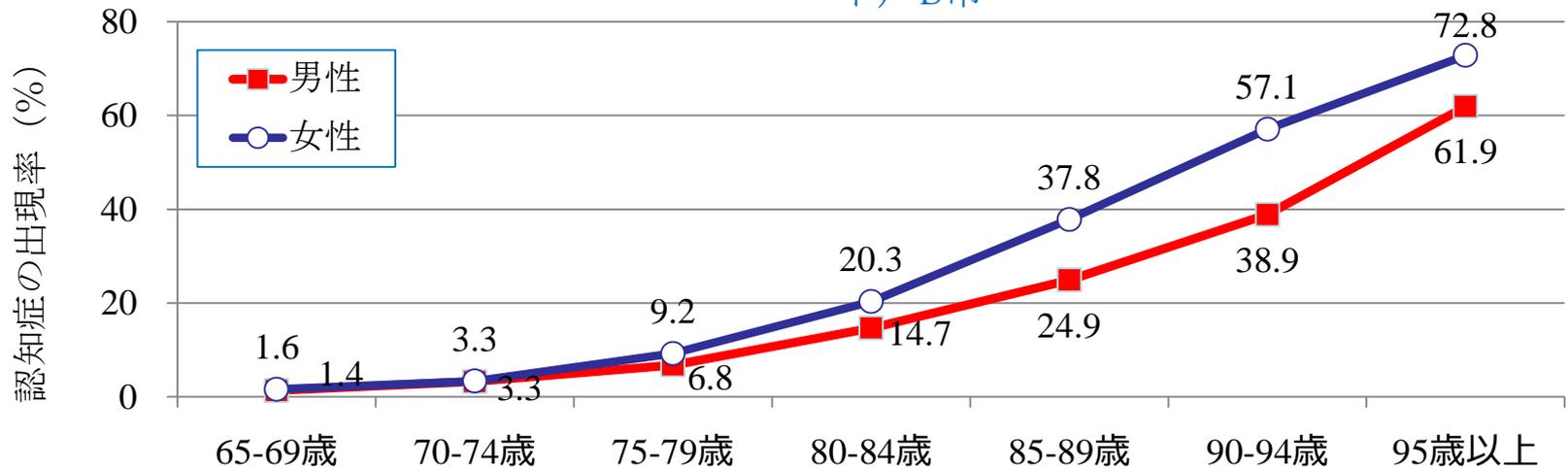
性別年齢階級別にみた認知症の出現率は？

図1-1. 性別年齢階級別にみた認知症の出現率

ア) A市



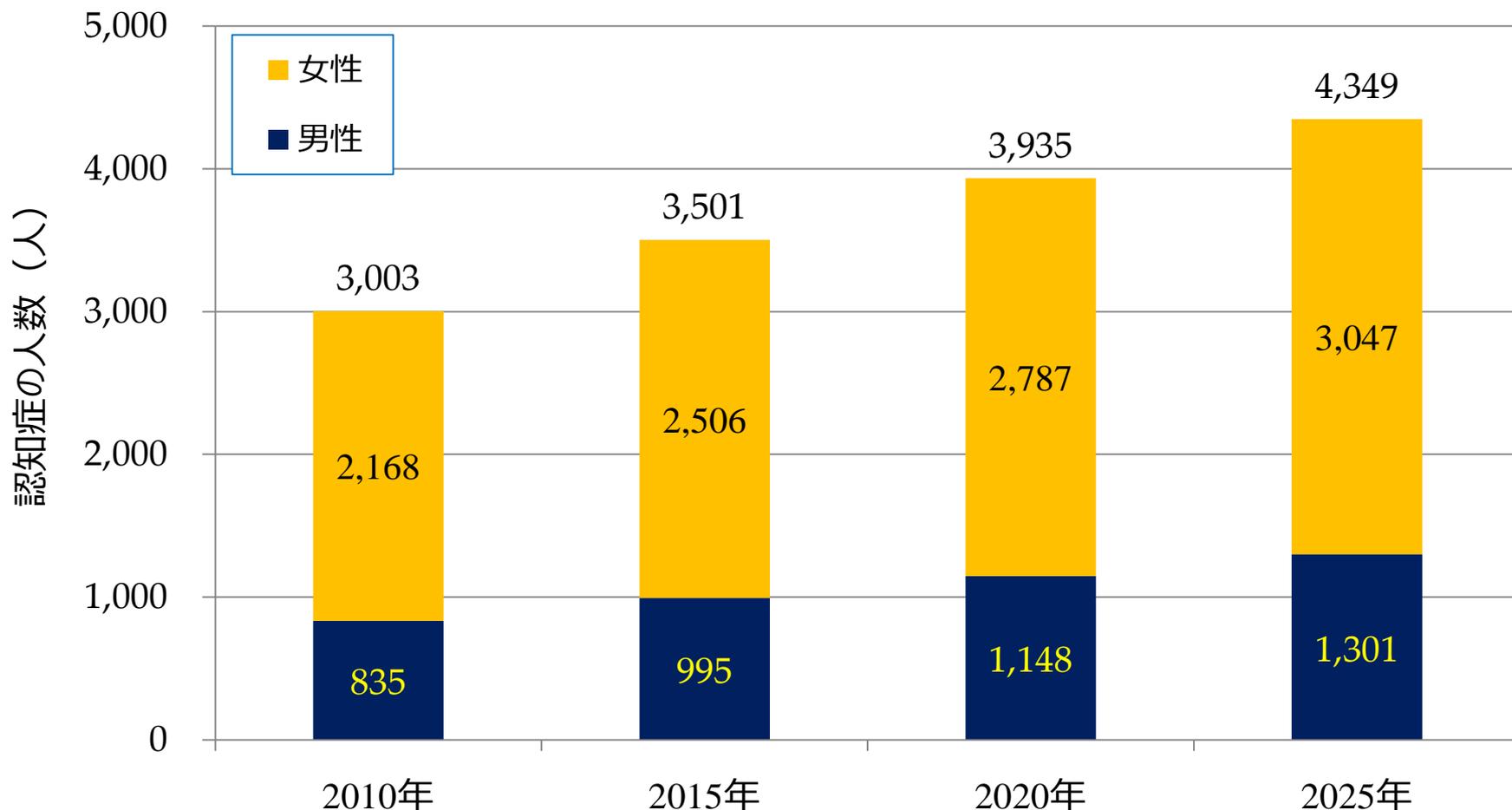
イ) B市



2025年の認知症の人数は？（A市）

（性別年齢階級別認知症出現率が現在と同じと仮定した場合）

図1-2. 認知症の人数の将来推計



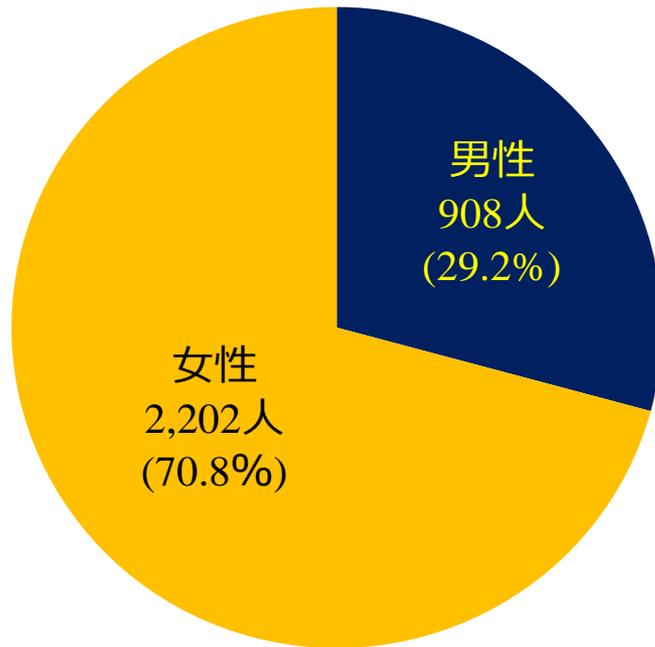
注. 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」の性別年齢階級別将来推計人口に、現時点の性別年齢階級別認知症出現率をかけて推計したもの。

2. 認知症の人の特性は どうなっているのか？

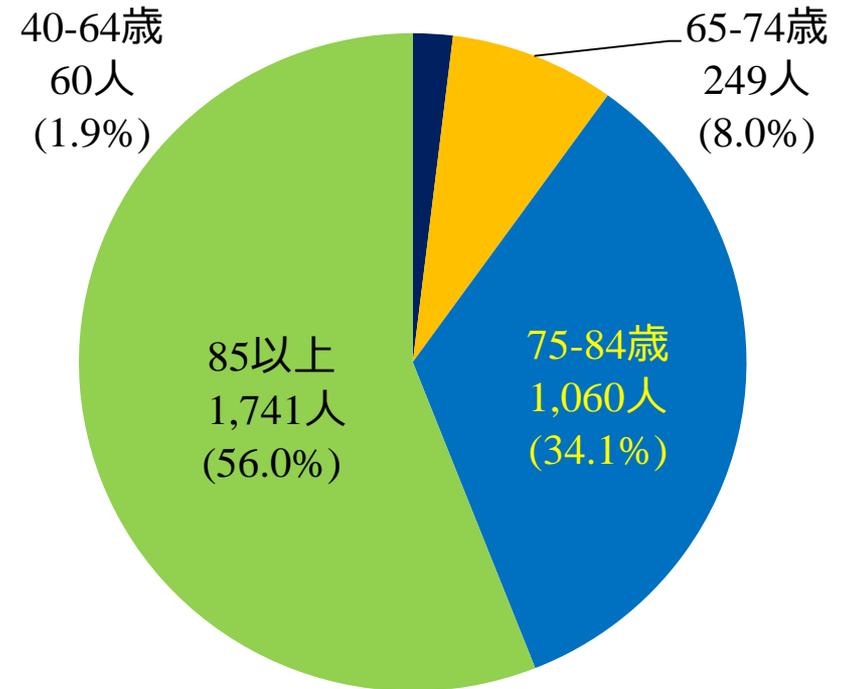
認知症の人の性・年齢階級別にみた人数・割合は？（A市）

図2-1. 性別年齢階級別にみた認知症の人数

ア) 性別

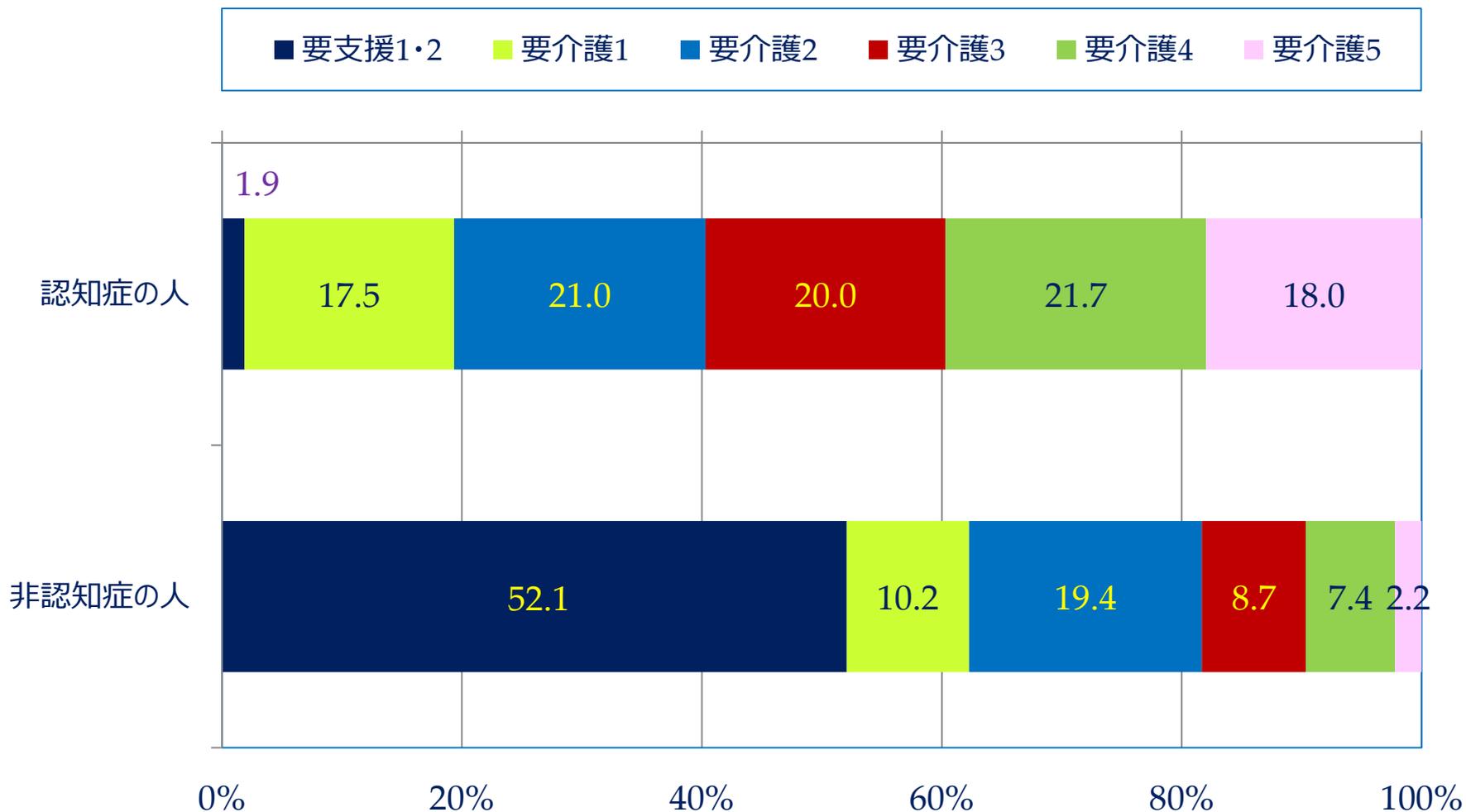


イ) 年齢階級



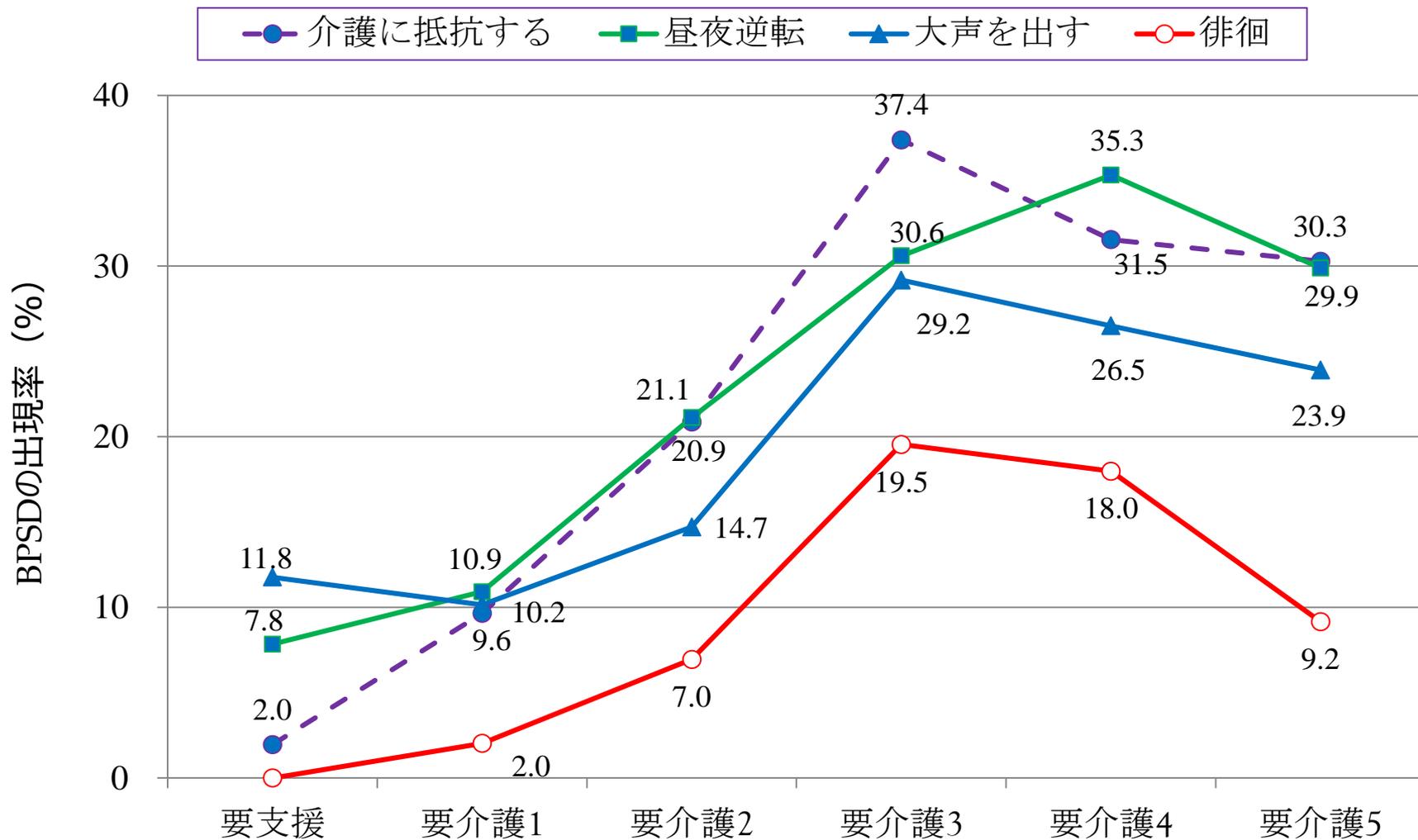
認知症の人の要介護度分布はどうなっているのか？（B市）

図2-2. 要介護度分布（認知症の人と非認知症の人の比較）



要介護度によってBPSDの出現状況は異なるのか？（B市）

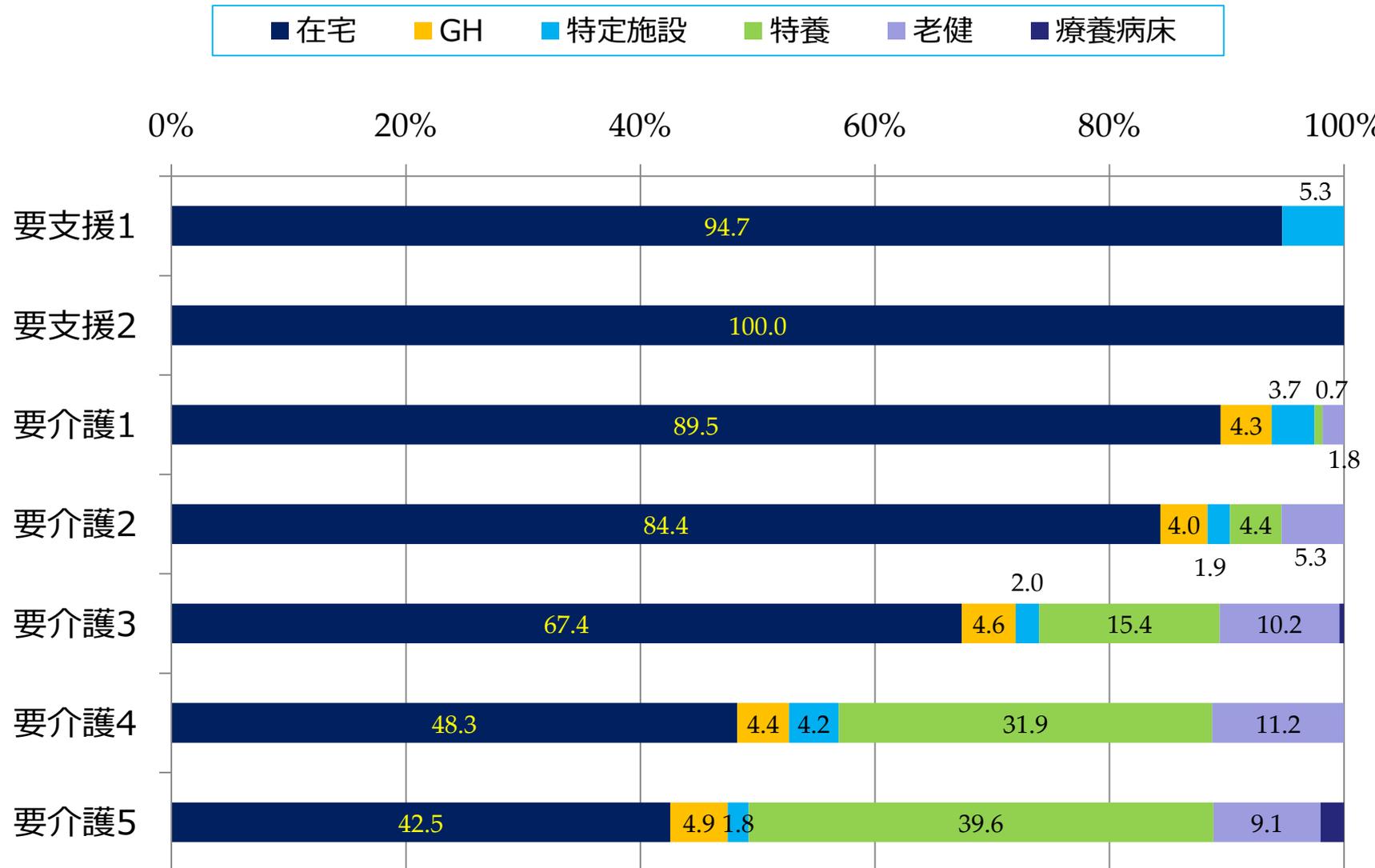
図2-3. 要介護度別にみた主なBPSDの出現率



**3. 認知症の人の療養場所はどうなっているのか？
また、認知症以外の人と違いはあるのか？**

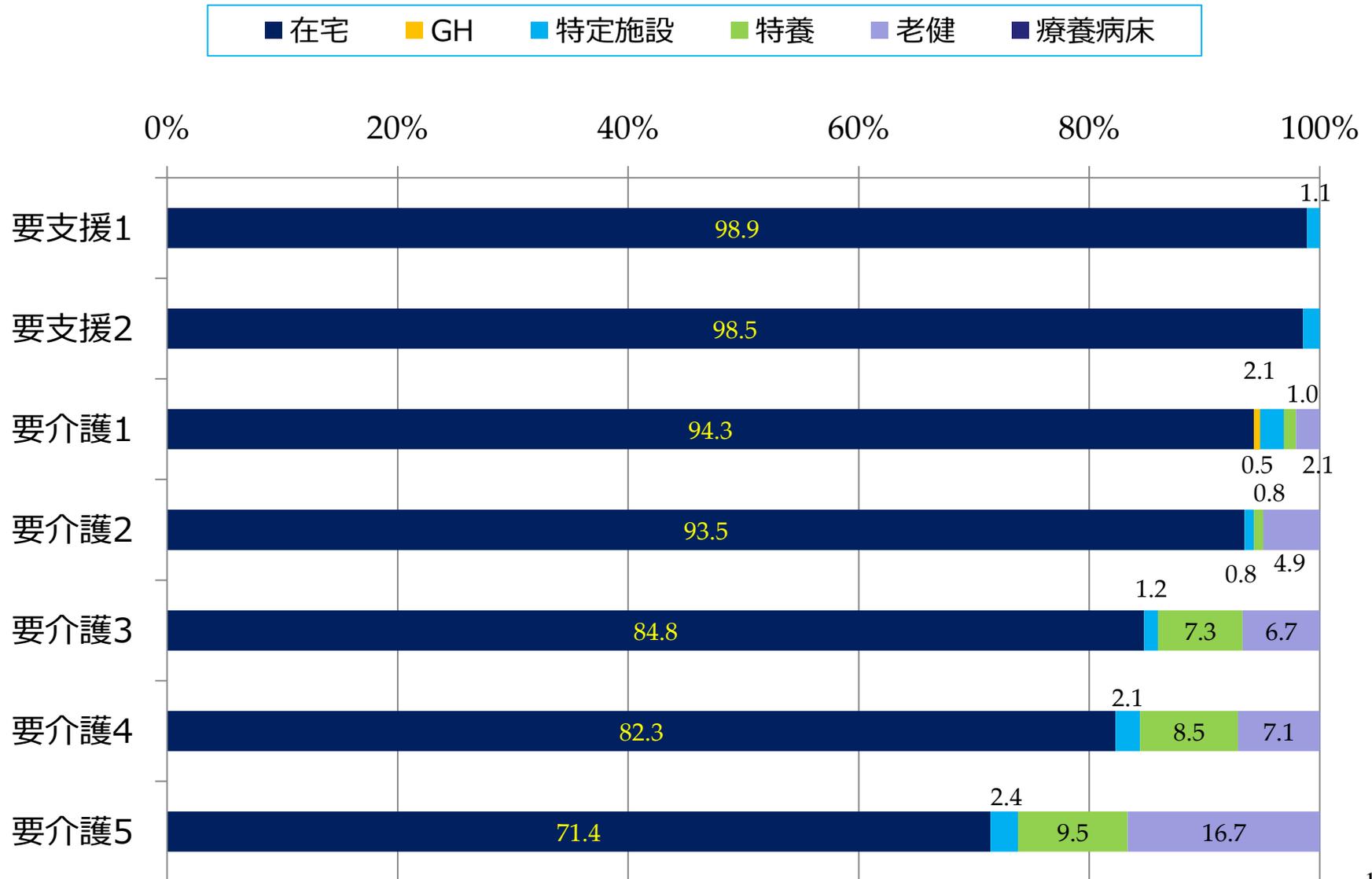
認知症の人の要介護度別に見た療養場所は？（B市）

図3-1. 要介護度別に見た認知症の人の療養場所



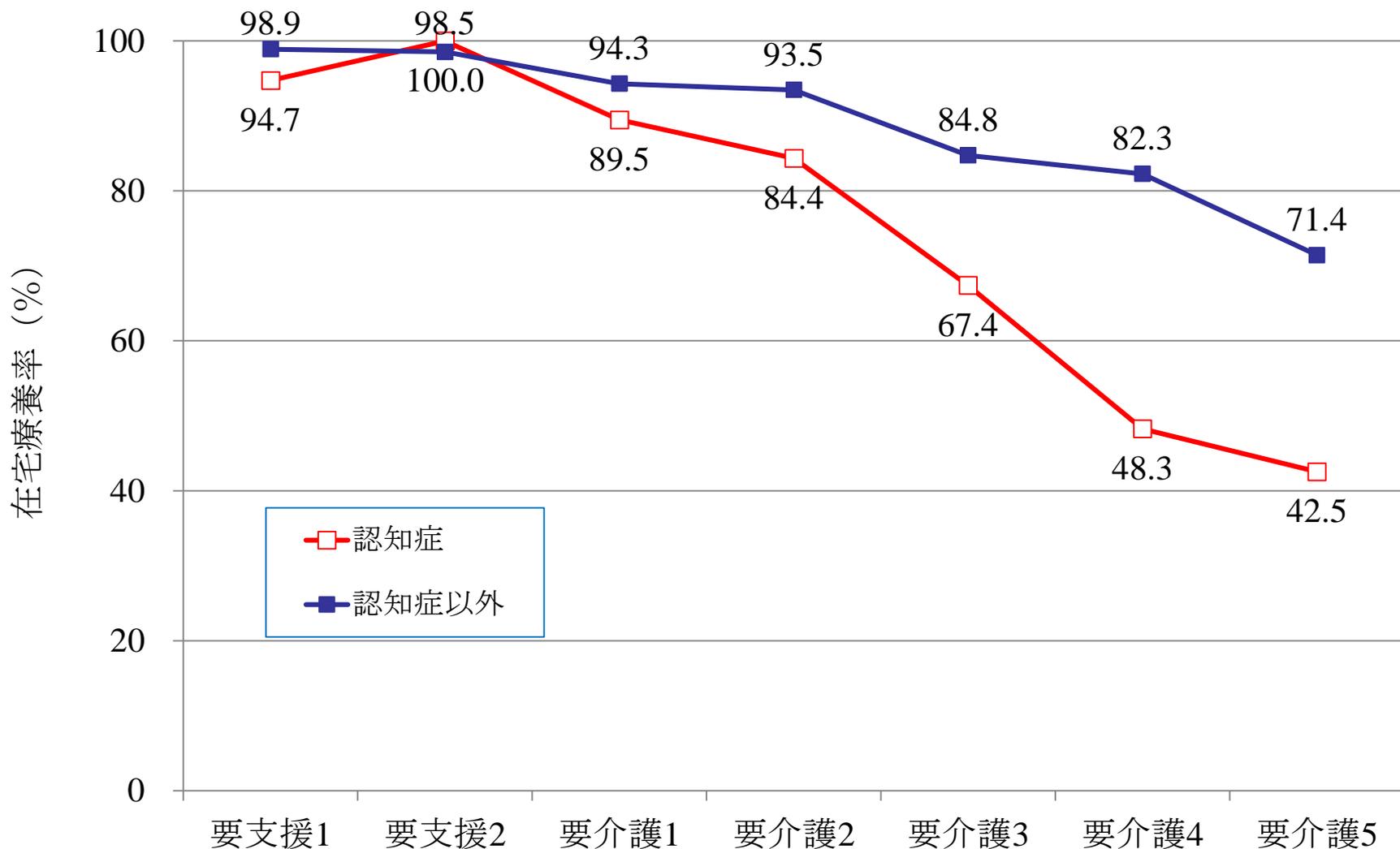
認知症以外の人々の要介護度別にみた療養場所は？（B市）

図3-2. 要介護度別にみた認知症以外の人々の療養場所



認知症の人と認知症以外で在宅療養率に差があるのか？（B市）

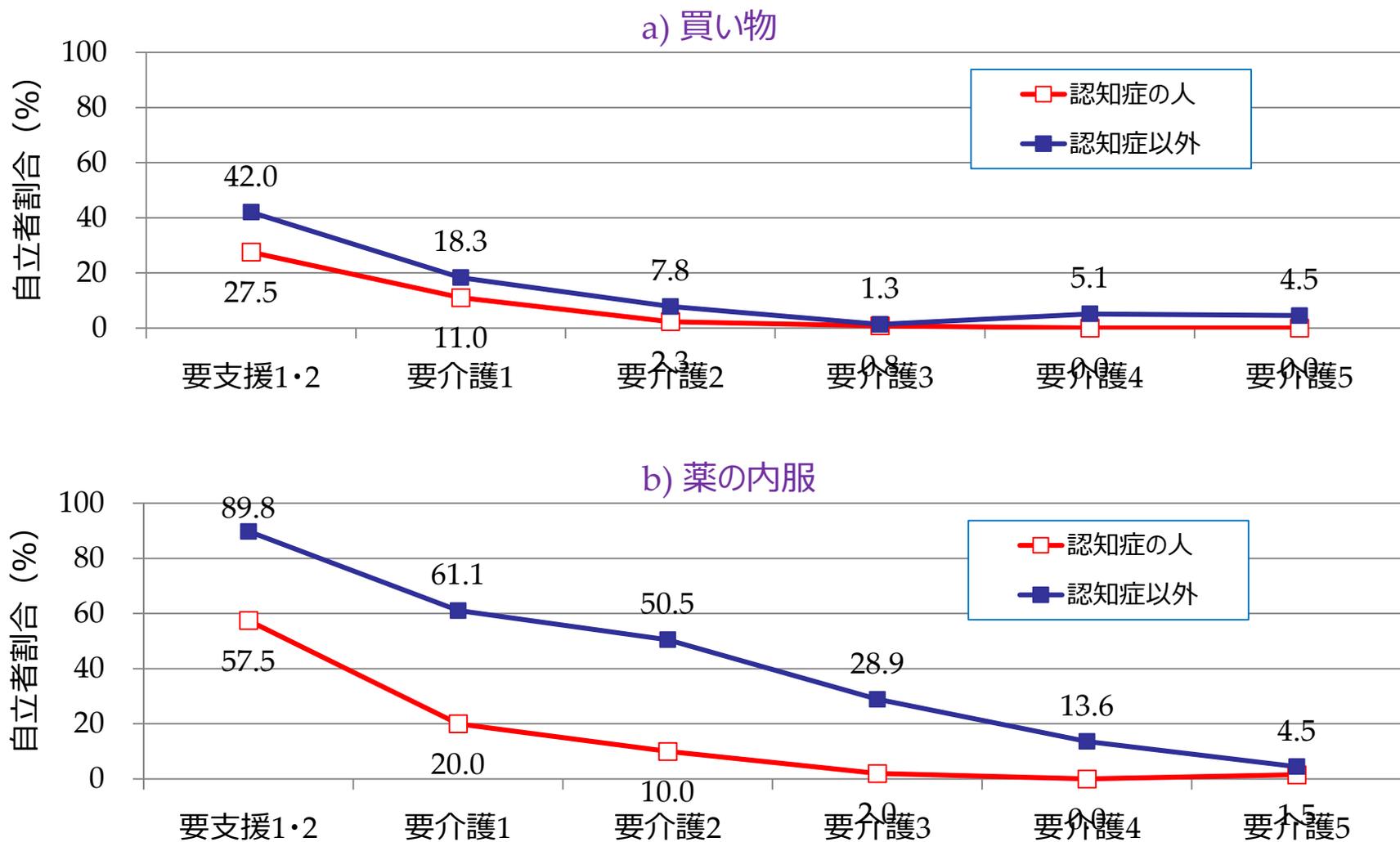
図3-3. 在宅療養率の比較



4. 認知症の人の生活機能の低下の特徴は？

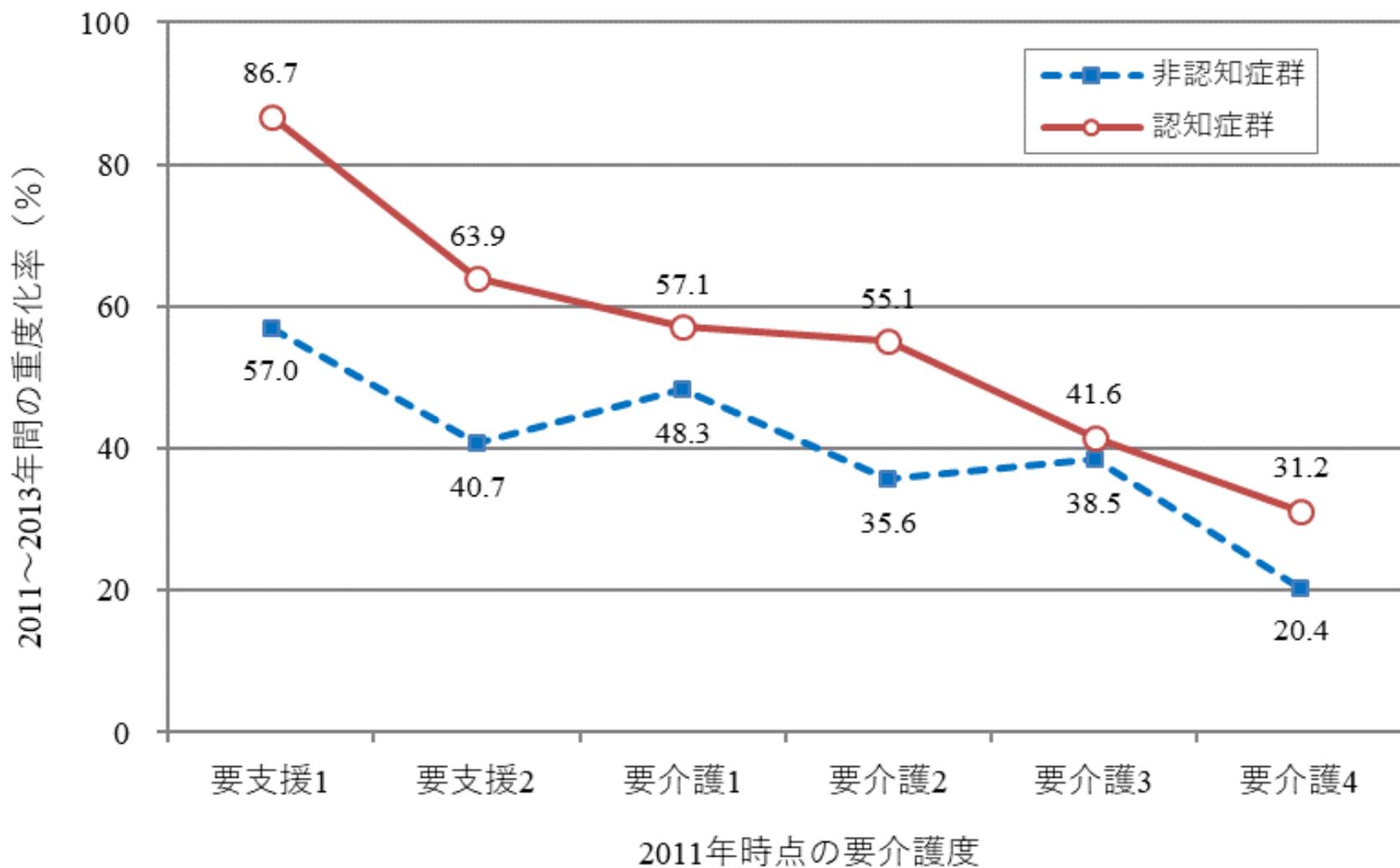
認知症の人と認知症以外でIADLの自立度に差があるのか（B市）

図4-1. IADLの自立者割合の比較（女性の場合）



認知症の人と認知症以外で要介護度の重度化に差があるのか？ (B市)

図4-2. 要介護度の重度化率の比較



主な分析結果（B市）

1. 65歳以上の認知症出現率は女性の方が高かった。また、男女とも80歳から急上昇していた。
2. 認知症群は、要介護3以上が約6割を占めていた。
3. 介護負担感の強い4つのBPSDの要介護度別発生率をみると、昼夜逆転は要介護4、介護に抵抗する／大声を出す／徘徊は要介護3で最も高かった。
4. 非認知症群では、要介護4でも8割以上が在宅で生活しているのに対し、認知症群では、要介護4～5の在宅療養率は5割を下回っていた
5. 要支援の女性のIADL4項目の自立度（実行状況）を比較すると、全ての項目で認知症群の方が低かった。
6. 全ての要介護度で、認知症群の方が、要介護度の重度化率が高かった。